

平成31. 令和元年度 事業報告 総括

社会福祉法人制度改革が施行されて初めて役員改選の年にあたり、6月に前理事長が任期満了をもって退任したことで理事長を交代しました。法人設立から46年を過ぎましたが理事長が交代するのはまだ2度目、21年ぶりのことで、県への変更届出書提出や法務局への登記等の諸手続きも滞りなく完了しました。

施設に入所して40年にもなる方を始め、改築が完了した当時さつき寮開所時に入所した2名の方を含めた男性入所利用者4名、そしてまだ若い女性通所利用者が他界されました。入所利用者は全員病気に罹り、入退院を繰り返し懸命に治療していましたが残念な結果となりました。通所利用者は、亡くなる当日までJSP班で作業をしていましたが、体調を悪くして帰宅途中に立ち寄った病院で急変し、帰らぬ人となりました。利用者の健康管理には常に配慮していますが、より一層支援拡充に心掛けていく所存です。

また、保護者の方の不幸も相次ぎ、特に通所利用2名の方は、愛する家族だけでなく生活環境も同時に失い、緊急で短期入所として受け入れる状況となりました。「親亡き後」については、保護者の方が常に抱えている不安の一つですが、今回のように不安が払拭できるよう迅速に対応していきたいと思えます。謹んでご冥福をお祈りします。

さつきハウス改築は平成30年度から着手し、居住棟3棟が完成しました。今後は周辺の外構工事を計画しています。これで武子地区の生活環境の整備が終了となります。

経営的な面では、入院や逝去等での利用率の低下が要因で福祉収入の減収や最低賃金の引き上げ等による人件費の増加等により、上半期は収支状況が悪化しました。しかしサービス提供日を増やし、致し方なく職員の賞与支給を見直す等のあらゆる対策を施し、下半期は回復傾向に移ることができました。

利用者支援では、就労移行支援の利用を希望する方がいなくなることもあり今年度をもって廃止することを決めました。前述のとおり亡くなられる方も増え、生活介護においては、高齢化・重度化が顕著に見られることから、更なる支援員の支援力向上や設備の充実を推進していきます。また、SEED及びヤングリースの利用者の減少傾向が続いているため、原因分析とその対策が急がれます。

10月は台風19号が日本全国に大きな被害をもたらし、県内でも佐野市や足利市の施設が浸水等の被害を受けましたが、希望の家は幸いにも人的、設備に被害はありませんでした。ただあまりの強風で支援員が勤務後も帰宅できず、事業継続計画(BCP)の策定を急いで取り掛かる必要性を感じました。

情報発信については、SNSのFacebookやTwitterに行事や日常の活動を積極的に掲載していますが、取引業者や見学者から、よく見ていると声を掛けられる機会も増え、希望の家と距離のある方にも知っていただいていることを実感しています。

法人全体の雰囲気も数年前よりは明るくなり、若手の意見も聞こえ職員が自分たちで研修等を企画するようになってきたので、一人ひとりの意識を変える等、もう一步前進するように心がけ利用者支援の充実を目指していきます。